

# 会報 習志野隊友

## 会員の声

### 陛下のベトナム残留日本兵慰問

先日死去された当習志野支部会員赤木博司氏(陸士56期)は、終戦までベトナムに駐留され、ベトナム残留日本兵のことを一際心にかけておられた。従って、この度の天皇皇后両陛下のベトナム残留日本兵家族慰問の報道を殊の外喜び、涙ながらに諸々の思い出を語られたことを、その時の感動とともに改めて思い起こす。故赤木氏の在りし日を偲び、ご冥福を祈りつつ、この一文を披露させていただく。

昨年三月、天皇皇后両陛下は、ベトナムを訪問され、大戦後のベトナムに留まってベトナム独立戦争に参加した元日本兵の家族に面会された。現地では元日本兵がベトナム人女性と結婚して家庭を築いた後、日本帰国に際し同伴が許されず残留した妻や子の苦難の歴史に、予てから思いを寄せられていた陛下は、これら残留日本兵の家族と対面し、その苦難の人生をねぎらわれた。

そもそも、日本軍がフランスの植民地だったインドシナ(現在のベトナム)に進駐したのは、昭和十五年である。終戦時8万人いた日本軍将兵は、昭和二十年八月、現地で武装解除、除隊となり、大半が引き揚げ船で帰国し復員したが、約600人の日本軍人が自らの意思で現地に残留し、ベトナム独立戦争に参加し、ベトナムの再植民地化を目論むフランス軍と戦った。

これらの日本人志願兵は「新ベトナム人」と呼ばれ、ベトナム(ベトナム独立同盟軍)に軍事訓練を施し、作戦指導を行った。クアンガイ陸軍中学など幾つかの軍事学校で旧日本陸軍将校・下士官による軍事教育が行われ、1954年にベトナムがフランスを破った「ディエンビエンフーの戦い」では、司令部の参謀の半分を旧日本軍人が占めていたと言われる。一連の独立戦争の中で残留日本軍人の約半数が亡くなったとされるが、戦後、30名を上回る日本人がベトナム政府から勲章を授与されている。

「新ベトナム人」(旧日本軍人)は現地でも尊敬され、ベトナム人女性との結婚も相次いだ。しかし、独立戦争後のベトナムの政治体制や生活風土に馴染まない日本人は徐々に冷遇され、帰

国を促されるようになる。1954年から元日本兵の帰国が始まったが、当初、ベトナム側は妻子を同伴しての出国を認めなかった。ベトナム戦争を戦った米国と日本が同盟関係にあったことも影響し、差別を受けたりいじめに遭ったりしたこともあって、元日本兵との関わりを隠して暮らす妻や子もいた。

日本との関係が改善されるのは、1990年代に入ってからである。今やベトナムにとって日本は最大の援助国であり、日本語習熟も高まり、日本に留学する学生は、中国に次いで2番目の多数を数える。「新ベトナム人」が果たした功績も、正当に評価されつつある。

天皇・皇后両陛下は、先の大戦の戦没者に深い思いを寄せられ、サイパン、フィリピンなど、積極的に慰霊の旅を重ねておられる。また戦没者の慰霊だけでなく、さまざまな事情で海外に出てその地に留まった日本人と家族にも長年心を寄せられてきた。一昨年フィリピンを訪問された際も、陛下の強いご希望で、それら日系人と懇談されている。

昨年八月の譲位のお気持ち表明後、初めてとなった天皇・皇后両陛下の今回のベトナムご訪問は、35度を超える高温多湿の中、行く先々で住民の歓声に迎えられ、友好親善を深められた。その多忙な日程の中、大戦後ベトナムに残留した元日本兵の家族と首都ハノイで面会された。現地では結婚した元日本兵の日本帰国により、後に残された妻や子の苦難の歴史を熟知されている両陛下は、集まった元日本兵妻のほぼ全員と言葉を交わされ、その苦難の人生をねぎらわれた。予定時間を大幅にオーバーしながら、一人一人に分け隔てなく耳を傾け、慰めの言葉をかけられた。

お身体の衰えを感じられながらも、先の大戦を戦った兵士達に思いを寄せられての陛下の海外御訪問は、御譲位の日程が押し詰まりつつある今となつては、これが最後となる可能性もある。ご譲位の最後の日まで、「象徴」天皇としてのお務めを真摯に果たし続けておられる天皇・皇后両陛下に改めて感謝申し上げるとともに、これからも末永いご無事とご平穩をお祈りしたい。

(会員 Y)

### 護衛艦「うしほ」の雄姿に歓声

去る一月十五日、千葉県隊友会の平成二十九年年度自衛隊部隊研修が海上自衛隊横須賀基地における護衛艦「いずも」乗艦見学企画で実施され、家族啓蒙の思いもこめ、私と子供達(娘夫婦と友人)6名が参加しました。『いずも』にぜひ乗りたいという子供達の熱望に応えての参加です。

昼前にJR横須賀駅に到着。私にと



つては防大学生の時以来の50年ぶりの横須賀駅です。当時「階段の無い駅」として知られておりましたが、今なお変わらない駅の姿に懐かしく感動さえ覚えました。

子供達は、横須賀駅に到着後すぐに「どぶ板通り商店街」に向かい、お目当てのミリタリーショップを回ってショッピング、そして昼食、海軍カレーやネイビーバーガーを食べるなどして楽しみました。

横須賀駅前に13時集合で、海自制服姿も凛々しい隊員の方の出迎えを受け、横須賀基地に向かい、いよいよ研修開始です。

到着してまずは「いずも」の雄姿・



をし、艦内の大会議室でブリーフィング、そして艦内の見学開始です。

航空機の格納庫に到着した後、所定の場所に参加者全員集まりました。安全確認の後「甲板に上がります」との声で全員が立っている場所（航空機用昇降機がせり上がりました。その時、どよめきのような歓声が上がりました。子供達も大喜びでした。

甲板に到着して子供達はまた歓声、見渡す限りの甲板の大きさ（写真左・全通甲板）に感嘆の声を上げました。

また、隊員の皆様の説明・親切な対応に子供達は大いに好感を持ち、熱心に聞き入っておりました。最後に艦長のお見送りを受け退艦、子供達にとって楽しく驚きと感動に満ちた研修となりました。

りました。子供達の率直に喜ぶ姿を見て私自身も「一緒に来て良かった」と心から思いました。

(会員 N)

### 羽生結弦選手の健闘を讃える

本年二月、韓国・平昌において冬季五輪が開催され、日本選手の活躍目覚ましく、日本は冬季五輪始まって以来最多の13個のメダルを獲得した。

わけても五輪第9日目の二月十七日、フィギュアスケート男子で羽生結弦選手(23才)がソチ五輪に続く金メダルを獲得、その圧巻の演技に日本中が歓喜した。66年ぶりの五輪2連覇、冬季五輪の個人種目としては日本勢で初めての2大会連続金メダル、しかも再起を危ぶまれた怪我を克服して復帰後初舞台での快勝である。

昨年十一月、NHK杯の公式練習中に右足首を痛め、氷に乗ることさえ出来ない日々が続いた。平昌五輪への出場も危ぶまれた。それでも自分自身を信じ、あらゆる努力を重ねた結果の五輪連覇である。

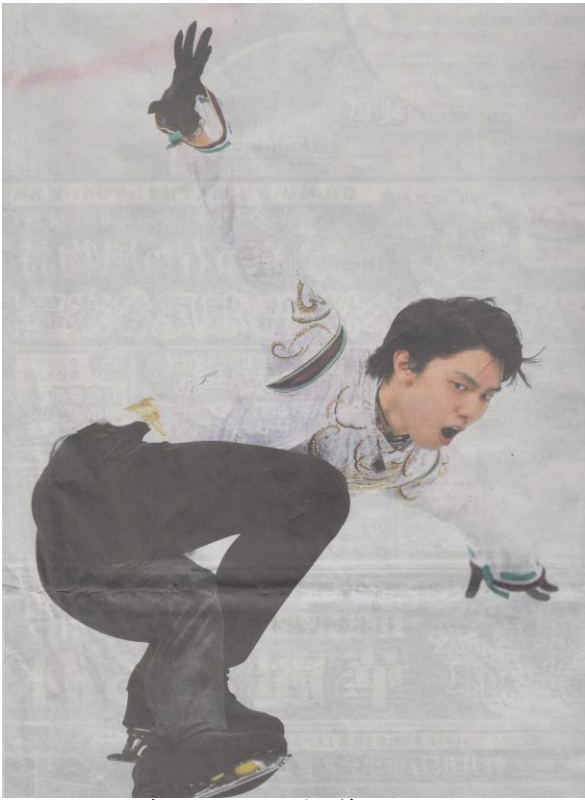
氷上の華やかさとは対照的に、羽生の競技人生は、過酷な経験や故障との戦いの連続だった。高校1年生の時に東日本大震災に被災し、避難所生活も経験した。周囲の惨状に気兼ねしてスケートを続けるべきか、悩んだ時期も

ある。その中で競技生活を続行させてくれたのは、逆に多くの被災者からの励ましの声だった。ソチの金メダルは、そうした声援への恩返しであり、羽生が表彰台で先ず口にしたのは、それらの人々への感謝の言葉だった。

ソチの王者になってからも、両足の故障や、公式練習での他の選手との衝突事故、内蔵疾患、持病のぜんそくなどに悩まされ続けた。だが羽生は、その度に強くなって復活し、しかも関係者への感謝の言葉を忘れなかった。

ソチ五輪は金メダルを取ったものの、フリーのジャンプで2度も失敗した。羽生は、その悔しさを胸に秘め、次の五輪での雪辱を期して練習を重ねた。進化へのキーワードは4回転ジャンプだった。2015年にはトーループとサルコを武器に世界歴代最高得点を更新、2016年には3種類目の4回転ループをものにして世界王者を勝ち取った。更に2017年には4種類目の4回転ルッツを究め、世界の強豪達が競って4回転ジャンプを飛ばす時代になっても、前へ前へと進化を続ける王者羽生の存在は色あせていない。当初、多種類の4回転ジャンプ導入に消極的だったブライアン・オーサー・コーチも、今では羽生に歩み寄っているといわれる。選手がコーチを逆に牽引してきた軌跡、この強烈な精神力こそ、羽生選手の真骨頂でもある。

そして最大の試練、これが平昌五輪



を目前に控えた右足首の故障である。五輪開催まで後僅か100日、それまでに右足首は回復するだろうか、回復したとしても、世界の強豪達と競う演技がちゃんと出来るだろうか、挫折しかねない気持ち振り絞って、羽生は、スケートは履けないまでも、陸上でのイメージトレーニング、上半身主体の筋力トレーニングなどのトレーニングメニューを緻密に組み立て、復活に向けてあらゆる努力を重ねたという。その上、羽生が当然金メダルを取ってくれるはずとの、日本国民の期待もプレッシャーとなって重くのしかかっている。その重圧に耐えてのリハビリと復活トレーニングの100日は、正に地獄から這い上がる思いの苦しい日々だったに相違ない。それを乗り越えて

五輪復帰を果たした羽生の精神力を真底から称えたい。

そして本番。100日間、スケートを履いての練習は敢えて避け、当日ぶっつけ本番の氷上の演技は、正に退路を断つての真剣勝負だった。SP3分、フリー4分半の演技は体調万全の選手にとつても過酷といわれる。その間、寸秒の弛緩も許されない精神集中の持続が要求される。怪我がまだ本復していない羽生が、万全の演技で最後まで滑りきったのは、正に精神力の賜物としか言いようがない。演技を終えて、痛む右足首を両手で抱えて座り込む羽生選手の姿に、自分で自分に勝ちぬいた充足感を見た。

五輪大会の金メダル表彰は、もちろん「技」の評価であろうが、私どもはそれにも増して、五輪出場までの道程並びに五輪本番での演技を通しての羽生選手の「精神力」こそを、世界王者・羽生の誉れとして高く評価したいと思う。羽生結弦、日

**お知らせなど**

本男子、23歳、大した男である。

(会員 S)

▽ **新入会員の紹介** (敬称略)

- ・岩谷 巧 (陸) 本大久保一丁目
- ・小林哲哉 (陸) 本大久保四丁目
- ・加瀬勝一 (技) 鷺沼台四丁目

▽ **会員のご逝去**

- 赤木博司様 袖ヶ浦四丁目  
一月二十日ご逝去

故赤木様には、かつて長年にわたり隊友会習志野支部長を務められ、会活動の活性化に尽力されました。また、千葉県中央郷友会会長もお務めになり、旧軍出身の生き残りとして、戦没者慰霊などの活動に顕著な足跡を残されました。在りし日のお姿を偲び、ご逝去を悼み、生前の隊友会へのご指導ご協力に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

▽ **行事等の実施・参加**

○ **県護国神社例大祭「奉仕**

十月四日、千葉県護国神社秋季例大

祭に先立つ境内の清掃、「ああ特攻碑」の清掃等の奉仕、十月十日、大祭当日の交通統制、奉昇等の奉仕活動に、千葉県隊友会挙げて多くの会員が参加した。習志野支部からは毎回、山田正二会員が参加している。

○ **自衛隊殉職隊員追悼式参加**

十月二十一日、陸自下志津駐屯地において自衛隊殉職隊員千葉県追悼式が実施され、県隊友会長以下多くの隊友会員が参列、当支部からは支部長代理として坂本興紀会員が参加した。なお、今年度の追悼式は、台風21号の影響を受けての悪天候のため、「鎮めの庭」ではなく、駐屯地体育館で行われた。

本年度の追悼式においては、新たに3柱を加えた県殉職隊員52柱の御霊が慰霊されたが、この中には、昨年5月、北海道で緊急患者輸送の任務に当たっていた陸自連絡偵察機LR12の墜落事故で殉職された4名の隊員のうち2名が千葉県出身で新たに御柱に加わり、ご遺族も参列された。

また、県隊友会は、追悼式に先立ち、「鎮めの庭」周辺整備の奉仕活動の実施を例としており、今回も十月三日、四街道支部を主体に周辺支部から集まった31名の会員が、樹木の剪定・枝落とし・清掃作業に汗を流した。31名の参加者数は、これまでの最大とのこと。

○ 習志野自衛隊初降下訓練

一月十二日、陸自習志野演習場における恒例の初降下訓練行事に、県隊友会長以下多くの隊友会員が参加した。当支部においても柚木支部長以下多くの会員が参加した。

小野寺防衛大臣を迎えて行われた本年の行事は、好天に恵まれ、例年にも増して多くの人々が見学に押し寄せた。本年新機軸の各種航空機からの降下傘降下においては、アラスカ、ハワイ、沖縄などから来援した米陸軍特殊部隊の多数の隊員を含め日米数百人の隊員の落下傘が習志野の空を埋め尽くし、圧巻の絵巻を展開した。

展示訓練終了後の野宴においても、日米空挺部隊員が呉越同舟、互いに盃を挙げ、隊歌を応酬し、元氣一杯、大いに盛り上がった宴となった。なお野宴の冒頭、地元三市自衛隊協力を代表しての挨拶を、本年は宮本習志野市長が勤められ、その元氣一杯の挨拶に、地元の方々一同、大いに面目を施した一幕だった。

○ 海自艦「いずも」部隊研修

県隊友会主催の平成29年度部隊研修行事が一月十五日、海自横須賀基地所在の自衛艦「いずも」見学の形で行われた。

(4) 当日の参加者は110名の盛況であったが、習志野支部からも野本三蔵会

員以下6名(一般会員含む)が参加し、海上自衛隊最大のヘリコプター母艦「いずも」の実地見学に、改めて感銘を深くした。  
(関係記事 第1〜2頁に掲載)

○ 建国記念日祝賀行事

二月十一日、千葉市京葉銀行文化プラザにおける「建国記念の日を祝う千葉県民の集い」に、隊友会からも小淵千葉県隊友会会長以下多くの隊友会員が参加、当支部も柚木支部長以下多くの会員が参加した。

○ 千葉県自衛隊入隊者激励会

三月三日、四街道市文化センターにおいて、県自衛隊家族会連合会主催による千葉県自衛隊入隊予定者激励会が開催され、柚木支部長以下が参加した。

○ 習志野部隊防衛講話

三月十三日、習志野駐屯地で行われた予備自衛官招集訓練において、柚木支部長が防衛講話を担当した。

▽ 行事等の今後の予定

○ 習志野駐屯地創立記念行事

陸自習志野駐屯地における同駐屯地

及び第一空挺団の創立記念行事は、四月八日の予定。

○ 千葉県護国神社春季例大祭

四月十日、千葉県護国神社にて開催予定。

千葉県隊友会は毎年、戦没者慰霊活動の一環として奉仕活動を行っており、本年も、四月七日の境内清掃、例大祭当日の車両統制、奉迎等の奉仕活動に、会員有志が参加予定。

○ 千葉県隊友会総会

平成三十年度千葉県隊友会総会は、四月十九日(木)、三井ガーデンホテル千葉(千葉市中央区)にて開催予定。

○ 千葉県隊友会ゴルフコンペ

五月二十二日(火)、木更津支部が幹事役で、ムーンレイク茂原GCにて開催予定。

支部(3〜5名) 対抗戦を基本とするが、混成支部チーム、個人参加も可。家族・協力者の参加も歓迎とのこと。

○ 隊友会習志野支部総会

六月中旬、京成津田沼駅周辺にて開催予定。

○ 習志野駐屯地夏まつり

八月上旬、陸自習志野駐屯地にて開催予定。

佐藤正久ポスター

掲示ご協力をお願い

「ヒゲの隊長・佐藤まさひさポスター」  
(横42cm×縦60cm、佐藤正久プロフィール全面、弁士型ポスター)  
(原則として、屋外の壁面等に直貼り)

上記を 年間を通じて掲示させていただける場所を 市内に探しています。ご自宅又はお知り合いで 掲示にご協力いただける方がありましたら 下記にご一報下さい。

ゆのきふみお  
柚木文夫

(TEL/FAX 047-451-8327)

(fum-yunk@sea.plala.or.jp)